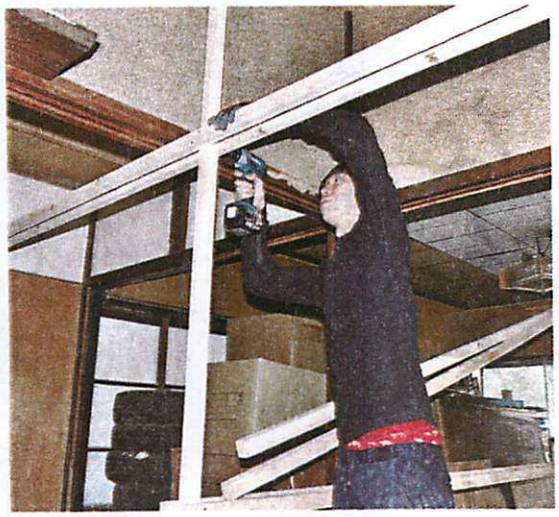
新聞　第17372号　平成27年（2015年）8月29日（土曜日）　日刊（月曜日休刊）

災害の記憶伝えたい



パネル展示用の木枠を設置する大学院生ら＝同

展示会開催のチラシを持ち来場を呼びかける長崎さん＝三陸町綾里

関東の5大学が協力

9月19日から開催「津波と綾里博物館展」

三陸町

大船渡市三陸町の綾里地区復興委員会（佐々木昭吉委員長）と東京都などの5大学は、9月19日（土）から綾里字港地内の家屋で開く「津波と綾里博物館展」に向け、準備作業を進めている。昭和三陸大津波や東日本大震災など自然災害の歴史、記録を伝える活動で、作業にかかわる各大学の学生や大学院生らが「津波の記憶をこれからも風化させないために」と思いを込める。

綾里地区では東日本大震災後、首都大学東京（東京都）と常葉大学（静岡県）が同復興委員会と連携し、復興計画制作に協力したことなどをきっかけに、津波被害や過去の復興事業などについて研究。両大学のほか、東京都の明治、東京、茨城県の筑波各大学なども支援に加わり、ワークショップの開催を通して地域住民に成果を報告してきた。

同展は、5大学や復興支援にかかわった団体がこれまでの研究の記録を中間発表し、震災の記憶を伝承するもの。会場は、昭和8年の大津波後に高台移転によって建てられた家屋で、現在空き家となっている民家に決めた。

家屋は木造平屋で、延べ床面積は90平方㍍ほど。津波後に山を切り崩し、整備された土地に建てられたといい、家屋自体も歴史的価値を秘めている。

場内には、▽昭和三陸大津波の復興の歴史▽昭和の復興地と復興住宅▽昭和時代の綾里地区の地域社会の変化▽綾里地区の復興写真▽東日本大震災での避難と復興のあゆみ――などについてのパネルや模型を展示する予定。

今月24日からは、各大学の学生や大学院生、教授ら20人以上が綾里地区に滞在し、準備作業を展開。家屋の掃除と並行し、パネル展示用の木枠づくりなどを着々と進めている。

首都大学東京大学院1年の長崎舞子さんは「綾里に来るのは今回が初めてだが、今まで研究を行っていた先生や先輩たちから被災地の話は聞いていた。被災から復興までの歴史など、私自身も学びながら当日を迎えたい」と話していた。

展示の会期は9月19日から22日（火）までの4日間。開場時間は午前10時から午後6時までとなっている。入場無料。

問い合わせは、首都大学東京の饗庭研究室（TEL 042・677・2359）へ。

実証水田の評価法確認

高田

大胆な工夫は収入にかかわるため、なかなか自らの田では〝冒険〟からさらに農薬を減らす▽株間を広げる――をそれぞれ試す。慣行初めて取り組み、このうち0・2㌶が実験水田。研修会に参加した

大切な人へ

働く婦人の家主催

大船渡市働く婦人の家が主催する「大切な人へ絵手紙を講座」は27日、盛町の同婦人の家を会場にスタートした。参加した市民たちは講師のアドバイスを聞きながら、思いを込めた絵手紙の描き方を学んだ。

この講座は、趣味の